

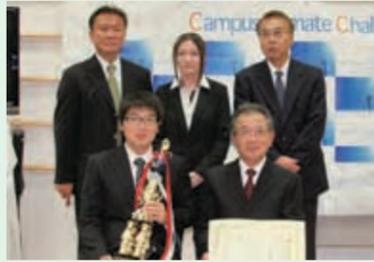
平成25年(2013年)1月1日発行

第4回エコ大学ランキング 総合第1位入賞

節電への取組み、CO2排出量の削減、自然エネルギーの活用などが高評価



トロフィーを授与される初山君。左は柳澤副理事長



本学の出席者

10月23日(火)、エコ大学ランキングの表彰式が地球環境パートナーシッププラザ(GECO)国連ビル内において、入賞した大学の学長や学生代表が出席し、各報道機関の同席のもと開催された。総合第1位(2位フェリス学院大学・3位東京大学)の本学は、柳澤副理事長、藤田総務部長、施設環境管理課の原課長、学生環境推進委員会の初山委員長、久保塚副委員長が出席し、私立大学では初めてとなる栄えある賞を受けた。

この受賞の背景は、本学が従来から取り組んできた環境活動をはじめ、3.11東日本大震災以降に取り

組んだ更なる省エネルギー活動や、日頃学生が主体となって活動している地域連携などが、外部から高い評価を得た結果である。

今回の受賞はISO14001の環境活動の成果と捉えている。今後はさらに学生への環境教育を中心とし、1人でも多くの環境マインドを持った学生を社会へ送り出せるよう取り組んでいく。

なお、「エコ大学ランキング」とは、全国781校の大学を対象にNPO法人エコ・リーグがアンケート調査を実施。184校の中から地球温暖化対策、環境教育・学生環境活動などをランク付けしたものである。

3年連続で上位入賞を継続中!!

年頭の辞

君がいてくれてよかった そんな技術者を育てたい



学長 波多野 純

平成25年(2013)、新しい年を迎えました。被災地のことを考えると、とても「おめでどう」とは言えません。東日本大震災では、1万5800人余の方が亡くなり、2700人余の方が未だ行方不明です。その後の原発事故により、住み慣れた土地を離れたままの方も少なくありません。この未曾有の災害を、記憶の彼方に追いやることができません。日々、自らに突きつけられた問題として、向き合っている方がありません。

でも、今年こそ、希望の年であって欲しい、と願っています。若者が希望を持てる社会にしたい。たとえ、不況の嵐が吹き荒れる、先の見えない、混沌とした世の中であっても、大学は、高い志を持ち、語り続けなければなりません。それが大学の使命です。ある雑誌が企画した、被災地の受験生向けの色紙に、私は「君がいてくれてよかった」と書きました。学生諸君には、「工学の知と技を、本学の実工学教育で培い、アジアで、世界で、被災地で、感謝され

る技術者に育って欲しいと願っています。では、誰から感謝されるのでしょうか。20世紀の工学は、世界のすべての人を幸せにしたい、と願って進歩してきました。20世紀の建築界の巨匠ル・コルビュジエ(1887-1965)は、「住宅は住むための機械である」と言いました。機械は、目的と機能が一對一で対応します。回転機は印刷のために作られ、それ以外の目的には転用できません。「優れた住宅であれば、世界のすべての人に幸せをもたらす」と、彼は考えたのでしょうか。でも、世界の各地は、気候も違えば、建築資材も異なり、生活文化も多様です。すべての人、すべての地域にふさわしい統一した住宅は、あり得ません。すべての人を幸せにする統一した答えはないと、21世紀の社会は気づき始めています。では、「すべての人」を「大多数の人」に置き換えたらどうでしょう。ここに大きな落とし穴があります。そこで置き去りにされるのは、弱者です。「大多数の人」を幸せにする、喜ばれる工業製品や建築空間は、営利を目的

年頭所感

第二世紀を力強く歩み、多様な才能が育つ



理事長 大川 陽康

の「高い技術教育」であるとして、昨年、日本技術者教育認定機構(JABEE)から認定証が授与されております。Think globally. Act locally. と言われますように、地球規模に眼差しを注ぎつつ、地域との連携を深めるのが21世紀人でありませう。地元宮代町とのパートナーシップは子ども向けプログラムから商店街振興まで、多彩に展開され、まことに喜ばしいことです。学園が誇る太陽光発電システムは、平成12年から本館屋上に導入を開始し、平成22年に増設を行って463キロワットとなり、国内の大学で最大級の設備となりました。さらに昨年度、工業技術博物館の屋根にアモルファス型電池60キロワットを設置しました。アモルファス型は日差しの少ないときにも発電量が多いと言われています。この様な取組が評価され本学は、エコ大学ランキング総合全国一位の栄誉を獲得しました。駒場では付属中学校・高等学校は生徒が順調に増えており、学園はますます活気づいています。今日、世界経済は、厳しさの中にありますが、本学園では、21世紀を担う多様な才能が育っています。

学園は今年、創立106周年を迎え、第二世紀を力強く歩んでおります。平成25年度より、大学院は学部3学群に対応して機械システム工学専攻、電子情報メディア工学専攻、建築デザイン工学専攻を新設するとともに、学科を横断して包括的に環境をとらえた専攻として環境共生システム工学専攻を設置します。今日、環境、エネルギー、経済発展、社会システムのあり方があらためて見つめ直され、技術の果たすべき役割が問われております。この問いに広い視野で深く掘り下げていく、新たな知の挑戦が始まります。同時に、より現場指向で実践的であることを重んずるのが、開学以来の教育理念です。大学院の教育・研究においても課題発見能力や問題解決能力の育成に力点を置いたプロジェクト・ベースド・ラーニング(PBL)を導入していきます。学部では、現在、生活環境デザイン学科棟(W2棟)を建設中です。本年2月には竣工の予定で、着々と工事が進められております。また、機械工学科が平成20年度より開始した「実践機械工学プログラム」が「国際的に通用する技術者を養成するための質

日本工業大学 平成25年度入試日程

工学部 機械工学科/ものづくり環境学科/創造システム工学科/電気電子工学科/情報工学科/建築学科/生活環境デザイン学科

Table with columns for exam type (General, Special, Center), dates, and locations. Includes details for application periods and exam dates.

- A0入試を3月上旬まで実施。
●各入試の詳細はそれぞれの「募集要項」で確認ください。
[入試チェックポイント]
①一年次の学費半額免除!入学手続き締切日は3/12(火)まで。
②入試奨学金20万円給付!充実の奨学金制度[一般入試とセンター利用入試の成績優秀者]
③入学検定料 割引制度 [一般入試・センター利用入試・特別奨学生入試 第2期 複数日受験・複数学科受験など割引]
④全国14ヶ所試験会場 [一般入試]
⑤2月・3月に受験できます [一般入試・センター利用入試・A0入試]

募集要項(願書)のご請求およびお問い合わせ先
TEL:0120-250-267(入試室) URL: http://www.nit.ac.jp/ E-mail: nyu-shi@nit.ac.jp

本学で先端技術研究の取り組みを

社会人大学院生 募集 (日本工業大学大学院 社会人特別選抜)
◆大学院工学研究科
博士前期課程 \*環境共生システム工学専攻 \*機械システム工学専攻 \*電子情報メディア工学専攻 \*建築デザイン工学専攻
博士後期課程 \*機械工学専攻 \*電気工学専攻 \*建築学専攻 \*システム工学専攻 \*情報工学専攻
■平成25年度 大学院 社会人特別選抜入試日程
日程
出願期間 面接試験 合格発表 手続締切
二次募集 平成25年2月5日~2月12日 2月22日 3月4日 平成25年3月11日
お問合せ先: 教務部教務課 大学院入試係 TEL 0480-33-7507 URL http://www.nit.ac.jp/

日本工業大学 専門職大学院(大学院技術経営研究科技術経営専攻) 中小企業技術経営コース/プロジェクトマネジメントコース/新事業創造・起業コース

働きながら学べる専門職大学院 第9期生 募集!
■平成25年度 専門職大学院 入試日程
日程
出願期間 試験日 合格発表 入学手続締切
第2回募集 1月7日(月)~1月15日(火) 1月19日(土) 1月24日(木) 2月4日(月)
第3回募集 2月12日(火)~2月19日(火) 2月23日(土) 2月28日(木) 3月11日(月)
願書のご請求およびお問い合わせ先: 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-5 日本工業大学 専門職大学院 TEL: 03-3511-7591 FAX: 03-3511-7594

### 埼玉県4大学による教育連携事業が始動

本学が連携校として参画する取り組み「彩の国大学連携」による住民の暮らしを支える連携力の高い専門職育成が、平成24年度大学間連携共同教育推進事業（地域連携）に文部科学省から選定された。

本事業には、埼玉県立大学（代表校）を中心に本学、埼玉医科大学、城西大学、埼玉医科大学城西大学連携校が参画する。連携科目の共同開発・開講をすることで、4大学の学生が



（左より）城西大・森本学長、埼玉県立大・三浦学長、埼玉県保健医療部・奥野部長、埼玉医科大学・別所学長、日本工業大・波多野学長

チームを構築し、現場で実習に取り組み、これによりコミュニケーション力や複数分野に至る幅広い視野から問題発見力、解決力といったソーシヤルスキルを身に付けることを目的とする。

本事業を本格的に立ち上げていくため、11月7日（水）に埼玉県立大学において、第1回彩の国大学連携学長会議が開催された。

会議では、今後の進め方や、本事業のステークホルダーである埼玉県との連携についても意見交換を図った。

埼玉県立大学の三浦学長は、埼玉県が進める健康長寿プロジェクトには、本事業による人材育成が大きな役割を担うことができると述べ、いよいよ本事業のスタートであること、各大学の単一目的ではなく、それぞれの生かせる場所を生かそうとすること、本事業の素晴らしいねらいであると語った。

### 川口信用金庫が本学に寄付講座を贈呈

本学と川口信用金庫とは、平成20年11月締結の産学連携協定に関する協定書に基づき、これまで技術相談、講演会開催等相互に協力を深めてきた。

昨年度から開講している公開講座「創業の基礎」を本年も後期に開講するにあたり、川口信用金庫から講師派遣等に協力いただき、隔週土曜日開講で年間15コマの「寄付講座」として受講申し込みが多く、一



日下理事長から目録を贈呈される波多野学長

その贈呈式が9月26日（水）に本学学長室で執り行われ、川口信用金庫の日下理事長から「創業の基礎」講座が波多野学長に贈呈された。

本講座は、9月29日（土）より15コマ、隔週土曜の1限・2限に行われている。少数精鋭で学生10名、社会人5名でのセミナー形式の充実した内容となっている。今回は2年目ということを受講申し込みが多く、一

### ISO-12年度環境目標達成状況

ISO-12年度における環境マネジメント活動は、教職員・学内関連会社・学生の協力を得て、目標をほぼ達成した。（表参照）特にエネルギー削減は、東日本震災以降継続した節電への取り組みや施設・設備の改善で効果が大きい。未達成となった紙使用量削減は、前年実績を下回ったが目標をクリアできなかった。また、グリーン調達も、エコ商品がないアイテムを加えての算出のため目標を未達成（エコ商品があるアイテム集計では達成）である。

以下に、平成23年10月から平成24年9月（ISO-12年度）の活動を紹介します。

- 節電への取り組み
  - ①教室を除く照明器具の電源解除・スイッチの使用制限（照明電力30%削減目標）
  - ②外灯の間引き点灯③教室・主要建物の室内ナイトパーシ実施
  - ④空調の中間期完全停止⑤外気温による空調運転制御⑥棟別に30分間の内5分間の空調停止（夏場の使用）
- 施設・設備の省エネ改善
  - ①博物館屋根に太陽光発電設備60kW増設・空調機高効率化（E・W棟の低棟・建築学科棟照明器具高効率化（23年文科省エコキャンパス推進事業補助金）
  - ②W4棟屋上熱交換塗料塗布（断熱効果）工事
  - ③階段教室に天井ファン設置（冷暖房環境向上システム導入）工事
- 環境分野研究奨励助成金制度による研究の推進と実践
  - ①モバイルAR技術を利用したエコミュージアムガイドシステムの開発（情報工学科 勝間田仁講師）
  - ②故郷福島への環境貢献・超音波除染システムの開発と実践（機械工学科 神雅彦教授）
  - ③タブレット端末と無線センサーネットワークを用いた屋内環境計測システムの開発
- 環境特別講演会
 

東日本震災の復興を願う、実際の現場でのリアルタイムな活動も含んだ特別講演「災害と廃棄物・火災予防対策や有効利用の可能性」を、学長以下教職員、学生約200名の参加を得て開催。講師には、国立環境研究所資源循環・廃棄物研究センター主任研究員の遠藤和人氏を招いた。
- 学生環境推進委員会活動
  - ①学園祭への出展（平成23年11月4日～6日）自転車による発電体験や大学の環境施設解説など
  - ②通学路ボランティア清掃実施（平成23年11月27日（火））学生40名、教職員3名、宮代町民37名参加
  - ③リサイクルショップ開催



JACO講師による研修

### ISO-12年度 環境目標の達成状況 / 2011年10月～2012年9月 (検証) ○:達成, ×:未達成

No.	監視・測定項目	進捗状況・実施記録(半期のまとめ)	検証(達成率)	推進担当者(記載者)
①	持続的発展が可能な社会の実現を担う人材を育成するための環境教育プログラムの策定	環境特別講演会の企画・実施(1月28日) 間接影響評価に関する検討	○	環境教育検討部会 環境推進事務局
②	持続的発展が可能な社会の実現に資する人材・高専化学技術者の育成	環境コア科目「環境と工学・工業社会」講義を実施、次年度コア科目の内容検討 新規環境系教員「環境工学応用実験」の実施 春学期環境コア科目「地球環境と人間社会」講義を実施 秋学期環境コア科目「環境と工学・工業社会」の打合せ、開講「環境化学基礎実験」の実施	○	環境教育検討部会 環境推進事務局
③	体系的環境教育の推進	エコ・ミュージアムの推進の継続 環境コア科目「地球環境と人間社会」とりまとめ、受講152名、合格105名 「環境化学基礎実験」の集中講義を実施、受講16名、合格11名	○	環境教育検討部会 環境推進事務局
④	環境に関する研究の推進	H23年度環境分野研究助成金 研究期間終了(5件) H24年度環境分野研究助成金 公募・採択(5件)	○	環境教育検討部会
⑤	環境コミュニケーションの推進 (環境関連情報の発信拠点としての役割と環境TPOの醸成)	エコ大学ランキング私立大学部門アンケート送付、エコロジープレスWEB(PDF版)発行、環境特別講演会、エコロジープレスWEB発行・学内報への環境情報提示、エコプロダクツ2011への出展準備	○	環境推進事務局
⑥	持続的発展が可能な社会の構築にむけた社会・地域との連携、行動の推進	学内環境施設見学(281名)、取材対応・宮代町「キッズエコサミット」参加	○	環境教育検討部会 環境推進事務局
⑦	環境教育	[10月]学内タバコ吸殻拾い、[11月]学祭・節福祭・町内清掃、[12月]消防訓練・学内タバコ吸殻拾い、[1月]第8回EMS推進協議会・学内タバコ吸殻拾い、[2月]学内タバコ吸殻拾い、[3月]リサイクルショップ準備・学内タバコ吸殻拾い、新入生入学準備(動誘いイベント等)、[4月]リサイクルショップ・学生環境推進委員会内部監査、サービスセンター部門内部監査に学生環境推進委員会がオブザーバーとして出席、のぼり旗・タバコ吸殻拾い、[5月]グリーン宮代参加・タバコ吸殻拾い、[6月]学生環境推進部会との合同・定期清掃・タバコ吸殻拾い、[7月]「エコ」2012参加(NHK放送センター)、[7月]タバコ吸殻拾い、[8月]宮代夏祭り参加、[9月]内部環境監査員養成コース・オリエンテーション時タバコアンケート実施、節福祭参加	○	学生環境推進委員会
⑧	電力使用量の削減	新基準値(H17-19年度基準値)の8%削減 目標値8,426,568、実績6,869,972、基準値比25.0%削減	○	施設環境管理課
⑨	ガス使用量の削減	新基準値(H17-19年度基準値)の8%削減 目標値641,282、実績557,038、基準値比20.1%削減	○	施設環境管理課
⑩	上水使用量の削減	目標:前年実績の1%削減 目標値37,696、実績37,222、前年実績比2.2%削減	○	施設環境管理課
⑪	紙使用量の削減	目標:前年実績の1%削減 目標値4,304,768 実績4,335,300、前年実績比0.3%削減	×	環境推進事務局
⑫	廃棄物の削減・適正管理	目標:前年実績の1%削減 目標値8,176,412 実績167,230kg、前年実績比6.2%削減	○	環境推進事務局
⑬	緑地整備・保全	秋期の定期剪定実施、学生会館駐車場整備に伴う樹木植替え、後援会退任理事による記念樹の植樹、東門～南東門及び学内周辺の樹木整備、年間計画に基づき落ち葉清掃・芝生の管理等実施	○	施設環境管理課
⑭	グリーン調達(環境に配慮した商品・サービスの調達)	目標:事務用品のグリーン調達率65%以上(WEB:ためめー) 金額調達率 44.94% 数量調達率 53.01%	×	財務部 NIT/NIH/環境推進事務局
⑮	安全・環境安全な化学物質の使用・保管管理及び化学廃棄物の保有・排出管理への改善	3/5(月)、5/10(木)、7/18(水)、9/28(金)、化学物質管理検討部会 4回開催 5/31(木)[高圧ガス取扱い]講習会開催 化学物質管理ソフト導入準備(2社見積)	○	I344-1使用管理委員会
⑯	ISO14001管理標準による適正使用と法・安全管理・省エネ推進	H23年12/1、H24年2/24、5/8、6/26、9/12、エネルギー使用管理委員会開催 6/29CO2基準排出量、H23年度排出量第3者機関検証 H24年夏季省エネの取組み実施、階段教室への省エネ化実施 年度目標値検討	○	環境管理責任者
⑰	教育・研究施設等の効率的・効果的活用及び管理・運営	施設監視実施 H23年11/30(木)システム工学系部門(指掛件数17件) H24年4/27(金)電気工学系部門(指掛件数21件) H24年8/1(水)建築系部門(指掛件数20件)	○	環境管理責任者
⑱	労働安全衛生法に基づき安全衛生の向上	3月 消火用非常用発電機の設置(第1期工事として2箇所実施) 3月 キャンパス一斉放送設備構築(第1期工事として幹線建物実施) 9月 緊急用内線電話設置(学内報で周知9/15) 9月 特殊健康診断(放射線取扱員業務)実施者の受診状況把握と推進 実施者2名	○	環境管理責任者

### グローバルニッチトップ企業への成長と ネットワーク形成

周知のとおり、日本の中規模企業は、品質(Q)、コスト(C)、納期(D)の追求だけでは生き残ることが難しい状況にあり、多くの中小企業は新たな展開方向を模索しています。その新たな展開方向の一つとしてグローバルニッチトップ企業への成長が注目されています。グローバルニッチトップ企業は、超音波除染システムの開発と実践、(機械工学科 神雅彦教授)

日本の中規模企業がGNT企業(以下、GNT企業と呼ぶ)とは、世界のニッチ市場において最大のシェアをもつ企業を言います。GNT企業は、高級、高性能、専門等のキーワードに該当し、差別化できるコア技術に支えられています。市場は小規模であるため、大手企業は積極的に参入しません。GNT企業は競合する中小企業に対して高い市場シェアで優位的に戦えます。そのため、GNT企業は相対的に激しいコスト競争のなない世界に住み、付加価値が高い生産活動を行っており、為替など経済変動に強い体制を持っています。

日本の中小企業がGNT企業を目指すためには、何よりも新たなニッチ市場を如何に発見、創造するかが大きな課題です。GNT企業へと成長した事例をみますと、身近な地域における産業や生活者ニーズをベースに市場創造するニーズ主

**専門職大学院**

**オープンキャンパス**

日時 第4回 2013年 2月9日(土) 13:00-17:00

会場 日本工業大学野田キャンパス 3階 多目的ホール

説明会、模擬授業、パネルディスカッション、修了生・在学生とのフリートークセッションなど

◆お申し込み、お問い合わせは・・・

日本工業大学 専門職大学院

http://mot.nit.ac.jp/ ※WEBからお申込みができます

TEL. 03-3511-7591 FAX. 03-3511-7594 E-mail mot@kanda.nit.ac.jp

導、自社のコア技術を用いて市場創造するニーズ主導のパターンに集約されま

コア技術を持たない多くの中小企業にとっては、ニーズ主導が現実的な選択となります。コア技術を持つ中小企業は、ニーズ主導も選択できますが、ニーズに適合できるようなコア技術の変革が課題になります。いずれのパターンにおいても、社外に目を向けた国内外・地域でのニーズやシーズとコア技術形成が不可欠です。多様なネットワーク形成には、高度な情報通信システムを活用だけでなく、新

たな人脈づくりが重要となります。人脈づくりには、相手に自らの存在を認めてもらえる求心力をもつ魅力づくり(コア技術も含め)と多様な出会いの場に身を置く必要があります。幸いにも、東京には多種多様な産業・職業に就業する人材が多く、留学生が多いだけでなく、それらの人々を高める人材育成が課題となります。(大学院技術経営

### エコプロダクツ2012に出展

本学は、12/13～12/15の3日間、東京ビックサイトで開催された「エコプロダクツ2012」に3回目の出展を行った。過去2回は、本学と学生が協働して出展していたが、今回は学生環境推進委員会が中心となり、学生手作りの「学生環境報告書」「環境パネル」を展示するとともに、説明等にも対応し展示会は盛況に終了した。また、見学者からは「第4回エコ大学ランキングで総合第1位」の取り組み事例に数多くの質問が寄せられた。



本ブースで来場者に対応する学生

# 第44回若杉祭開催報告

第44回若杉祭が11月2日(金)から4日(日)まで開催された。今年のテーマは、「若過ぎ魂(soul)」。「来場者や参加者に、若人である学生の魂を五感で感じていただきたいという意味が込められていた。会期中は天候にも恵まれ、来場者は3日間でおよそ2,000人となった。

例年通り、多くの団体がバラエティーに富んだ出店をし、様々な企画が目白押しであった。初日はオープニングパレードから始まり、「らき☆すた」などの声優、平野綾のトークショー、2日

目にはお笑い芸人のアンガールズ他のトーク&ライブ、3日目は若杉祭最大のイベントである「秋のからっ風こんさあと」が開催された。本年は野外ステージで昨年レコード大賞新人賞を受賞した「SUPER☆GIRLS」のライブが行なわれ、熱気と興奮で大いに盛り上がった。

会期中にはこのほか、2日目に第13回ホームカミングデー、3日目に建築設計競技表彰式が行われた。後夜祭ではこれも恒例となった花火が打ち上げられ、大成功のうちに幕を閉じた。



【左上】ステージでの企画イベント 【中上】音楽サークルのライブ 【右上】オープニングの衣装行列  
【左下】建築設計競技表彰式 【中下】ホームカミングデーの学内見学 【右下】ホームカミングデーの懇親会

## 教育改革シンポジウム開催報告

10月から11月にかけて開催した計2回の教育改革シンポジウムをまとめて報告する。

【第36回】10月25日(木) 授業公開による授業改善「よい授業」とは?」

本学で授業公開が実施され始めてから、この春学期でまる六年になった。全学

を挙げての取組としては全国でも稀な成果である。他の教員の授業を参観することで、教授テクニックの共有や新しい教育アイデアが発見できたこと、さらには、参観者から指摘を受け、あるいは、参観した授業に対してコメントすることで授業が見直され、多くの授業改善が見直されてきた。

教育改革委員会が企画した今回のシンポジウムでは、より広く知見を共有することを目的として、まず今までに蓄積された授業参観報告を整理した報告があった。

【第37回】11月8日(木) ハラスメント対策研修 セクシャル・ハラスメント、パワー・ハラスメント、アカデミック・ハラスメントをなくすために

今回は学内のハラスメント防止委員会が企画したハラスメントが起こる大きな原因である、ハラスメントに関する知識不足、教職員間での認識の違い、などについて知見を共有することを目的として開催された。

ハラスメントなどのトラブルを未然に防ぐことは、本学のような次世代を担う人材を育成する教育機関では、社会的な信頼や評価を得るためにも重要なことである。

シンポジウムでは、外部から特別に講師の方を招いてハラスメント対策についての講演をしていただいた。多くの事例を交えての講演であり、有意義な時間となった。

## 就職支援情報

### 保護者のための就職ガイダンスを初開催

10月27日(土)、学友会館に於いて就職支援課主催の「保護者のための就職ガイダンス」が開催された。本学において初めての企画であり、これから就職活動を開始する学部3年生と大学院1年生、さらに就職活動の終盤を迎えた学部4年生と大学院2年生の保護者を対象とした。



渡邊氏の基調講演

支援部長より「本学の就職状況について」と題し、本学の就職支援の取組を中心に、保護者の方々に子供へのサポートの仕方について説明がなされた。

基調講演は人事コンサルタントの小野寺徳子氏より「新卒者の雇用情勢と埼玉労働局の取組」について、就職実現まで徹底的な支援を行うという内容での説明があった。続いて、竹内学生

支援部長より「本学の就職状況について」と題し、本学の就職支援の取組を中心に、保護者の方々に子供へのサポートの仕方について説明がなされた。

基調講演は人事コンサルタントの小野寺徳子氏より「新卒者の雇用情勢と埼玉労働局の取組」について、就職実現まで徹底的な支援を行うという内容での説明があった。続いて、竹内学生

## ものづくり環境学科・創造システム工学科合同講演会

### 「バイオとナノの世界に遊ぶ」 「使い済みの家電はどうリサイクルされるの?」



パネルディスカッションで質問に答える講演者

誕生から4年目となり、1年生から4年生までそろったものづくり環境学科と創造システム工学科が、第4回目となる合同講演会を12月8日(土)にLCセンターで開催した。

毎年、各学科に関連のあ

のさらなる応用として、バイオデバイスやエネルギーソリューションデバイスについても紹介があった。

次に、「使い済みの家電はどうリサイクルされるの?」というテーマで、本学の非常勤講師でもある、株式会社テック企画部の雨宮隆氏から、毎日働く洗濯機や携帯電話が、新しい機種を買ったら古い箱となる、そのあとどうなるのか、日本で年間約1700万台がリサイクルされる、テレビ・冷蔵庫・洗濯機・エアコンの4種類の家電から金属やプラスチックが取り出さ

## 第7回ビジネスプランコンテスト 表彰式・特別講演を開催

今回は101件(内グループ59件)、187名の応募があった。9月18日(火)、書類選考通過者による最終のプレゼンテーション審査が実施され、20件の受賞者が決定した。(下表参照)

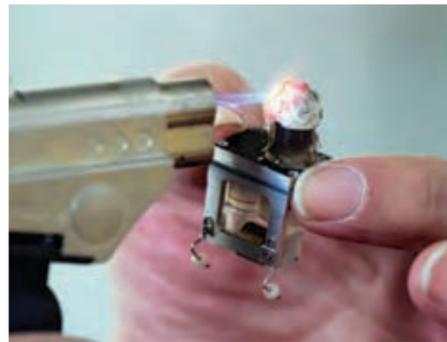
11月2日(金)に表彰式が開催され、受賞者に賞状と副賞が贈呈された後、各受賞プランのプレゼンテーションが行われ、聴衆は学生の斬新なアイデアに興味深く聞き入っていた。

式後には、第二部として記念講演会が開催され、本学学生60名を含む160名程が聴講した。講師として、元トヨタ自動車品質保証部部長級・碓仲氏氏が招かれ、「私が学んだトヨタの製造と品質確保」をテーマに、世界企業トヨタの現場における、ものづくりの体験について講演を行った。

最終判定	氏名(代表)	共同応募者	プラン名
学長賞	辻 輝明	恩田龍之介	除染作業やまわり〜あなたの街をクリーンに〜
NITEC埼玉産学交流会賞	峯岸 克弥		月刊、学生新建築
川口信用金庫賞	小谷野 健太		アメリカンコミックカフェの経営
宮代町長賞	三角 健太	酒井 遊・山谷悠和	お年寄り向けの清掃サービス
電子産学連携センター賞	柴田 大樹		地域交流型カラオケ講座および訪問販売
審査員特別賞	中島 知樹		日本工業大学内における衣類のクリーニングサービス
優秀賞	真鍋 史彦		茶室における道具箱シミュレーションサービス
優秀賞	鈴木 啓太	五井直人	傘リサイクル販売
優秀賞	吉田 健志樹	黒須健介	電子書籍喫茶 プックリーダーの貸出業務
優秀賞	金子 剛士		販売型求人サイト、ワークショップ
奨励賞	森田 晋史	長田 周	思い出ディスク開発・事業
奨励賞	櫻井 洋平	大野裕也・近藤空里	工房と職人の貸出し
奨励賞	茂串 光崇	橋本真澄・早川 慧	これもファミリーレストラン?
奨励賞	内田 俊樹	金子 彰・金室勇樹	掲示板を使ったソフト開発支援ビジネス
奨励賞	石井 貴文		現代の偏食を抑制する弁当の開発と販売
奨励賞	村田 修一		HappinessShopping:買物する人たちのために
奨励賞	小林 朋人		自動販売機
奨励賞	森田 裕也	渡邊文雄	季節を影射したガラス絵・ガラスの販売
奨励賞	横間 郷平	日暮憲道・齋藤 康	鉄道の町、大宮でレンタルアウトドア店を開く
奨励賞	村田 岳史	水戸 亮・小林勇斗	真・運転代行 帝京 〜トラック始めました〜

## 第16回スターリングテクノラリー 超小型車体で競う、マイクロクラスを新設

11月10日(土)、本学の宮代キャンパスで開催され、全国から計97チームが参加した。人間乗車、宙返り耐久など従来の7クラスに加え、今回から、5センチ角程度の超小型車体で競う「マイクロ」クラスが新設された。精密技術への興味喚起を目的としており、走行距離を競うほか、最小サイズの車両は「マイクロ賞」として表彰された。



マイクロクラスの車輛。熱源をバーナーで加熱し、走行する

## 日本工業大学と栃木市の連携事業

### 発見の森セミナー サイエンススクール in 日本工業大学

4年目となる本学と栃木市の連携事業は、前年同様2つの事業を開催した。

■発見の森セミナー  
今年度の企画は、震災後の身近な問題である放射線について、正確な知識を身につけてもらおうと、みんなが知りたい星と原子と放射線!と題して講義を行った。担当は、本学共通教育系物理学教室の教員で、11月17日(土)からの毎週土曜日(計4回)、國學院大学栃木学園教育センターにおいて実施。講義内容は以下の通りである。

・第1回「星の一生と元素の誕生」佐藤彰准教授  
・第2回「原子のエネルギーと利用」服部邦彦准教授

3回「放射線を知る・測る」梅谷篤史講師  
4回「生活と放射線」佐藤彰准教授

■親子でサイエンススクール in 日本工業大学  
11月17日(土)、栃木市の小学校4年生から6年生とその父母あるいは祖父母、兄弟の25名が一緒にものづくり体験をした。

その後、親子一緒に本学の学生食堂にて食事をとり、午後には工業技術博物館や超高電圧研究センター等の施設を見学。蒸気機関車の体験乗車や落雷実験に興味津々の様子であった。



親子で協力して「はばたきモービル」を製作

# 学長一行が華中科技大学 創立60周年記念式典に出席

式典は10月6日(土)、中国・華中科技大学光谷体育館において盛大に開催され、本学から波多野学長、柳澤副学長、古閑教授(機械工学科)、劉講師(共通教育系)が出席した。

同席には中国有数の工業系単科大学であり、本学とは昭和58年に学術交流および研究協力に関する協定を締結している。両大学とも最初の国際交流活動となったのがこの協定であり、これまで緊密な信頼関係を築いてきた。学術交流や学生の交換留学も盛んに行われている。昨年の5月には、同学の李培根学長一行が本学学長への表敬訪問として来学している。

10月5日(金)には前夜祭が開催され、同学生に よる演奏や踊りなどが披露



記念品として、鮎清銘副学長に日本人形を贈呈

され、大いに盛り上がった。6日(土)の式典は9時に始まり、同学李学長の式辞、来賓の祝辞、在学生・卒業生・教員の挨拶と続き、11時に閉会した。

式典後の夕方には本学を主賓とする李学長主催の晩餐会が開催され、あらためて両大学の友好関係を深めた。

## 東京デザインナースウィーク 学校賞入賞など、今年も健闘

10月30日(火)から11月5日(月)、明治神宮外苑 絵画館前(東京)において開催された世界有数のデザインイベント「東京デザインナースウィーク2012」において、本校作品展「において、昨年に続き本年も本学有志グループが「建築部門」「プロダクト部門」の2部門に 出展、左記の賞を受賞した。

・プロダクト部門 学校賞

10月30日(火)から11月5日(月)、明治神宮外苑 トデザインコース有志、モノ創りデザイン工房

・学生プレゼンテーション賞 セミグランプリ(古川 富健)

一つのグループで10作品まで出展できる。学校賞はグループ全体を評価する賞であり、その入賞はグランプリ、セミグランプリに続く賞である。学生プレゼン

## 未来を生きる世代のために、私たちが残すもの



謹んで新年のお祝辞を申し上げます。

この度、第45代学生自治会中央執行委員会委員長に就任いたしました。高麗達也と申します。時代が大きな転換期を迎えている今、学生自治会を預かる重責を与えられたことに、身の引き締まる思いであります。多くの期待を真摯に受け止め、身を賭して、職務に取り組みます。

本学は、今年で創立106周年を数え、これまで数多くの先輩方が活躍されてきました。私たちは、遠い昔から先代方が引き継いできた長い歴史の糧を受け

電気電子工学科3年 高麗達也(日本工業大学駒場高等学校出身)

継ぎ、今日まで至りました。先代方が未来の世代を思い、努力を惜みず、将来への投資を怠らなかつたからこそ、現在の学生自治会の繁栄があるのだと感じております。

『また見ぬ未来を生きる世代のために、私たちは何を残していけるのでしょうか。』

さて、私も学生自治会では年に一回、学生総会を開催しております。我々といしましては、学生自治会を代表しての意思を、学生の皆様方へ直接お伝えできる貴重な場であると同時に、皆様方のご意見を直接拝聴できる重要な場だと認識しております。この学生総会を、ただ傍観せず自らの意思を持ち参加することは、学生自治会の発展に十分な意味を持っています。

遅ればせながら、皆様方のご清栄を祈念しますとともに、本年も引き続きご芳情を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 学生の地域交流活動

### 学生と町と合同で 節福祭を開催

9月15日(土)、宮代町庁舎前のスキップ広場において、第3回節福祭が開催された。

節福祭とは、本学の学生環境推進委員会が大学の地元である宮代町と合同で昨年から始めたイベントである。環境保全活動の推進、エコ意識の向上、大学と町

### 宮代町避難所開設 宿泊訓練

9月29日(土)、宮代町百間小学校で避難所開設宿泊訓練が実施され、本学の外国人留学生10名が参加し、住民と交流を図った。今回は、外国人を災害弱者にしないよう震災に関する知識の啓発や避難所訓練を行うことが目的であった。体育館でのミーティングの後、炊出しや仮設トイレ設置等の訓練が行われた。約70名の参加者は体育館で1泊し、翌日解散となった。

武里団地に新たに2名の学生が入居

今回新たに入居したのは建築学科2年の豊倉龍太郎君と機械工学科1年の吉原和駿君の2名で、10月16日(火)に春日部市長を表敬訪問し、激励を受けた。家賃補助を受ける代わりに、団地での地域貢献活動が求められる。先に入居している本学学生2名や埼玉県立大生、建築学科佐々木研究室の4年生らは7月の隣人祭り、11月の武里文



市長と懇談する入居学生(両端)と佐々木准教授

### 入づくり・ものづくり フェア埼玉2012

展示期間中、建築部門、プロダクト部門共に見学者が絶えることがなく、賑やかであった。説明担当の学生達が、海外の見学者に対して物怖じせず積極的に説明をしていた姿が印象的であった。

入賞は逃したものの、建築部門で学校賞入賞、プロダクト部門では出展した6作品のうち2作品が作品賞入選という結果となり、内外の強豪校を含む57グループ、約500作品の中で大いに健闘した。

ものづくりに対する興味喚起と、伝統技能の継承などを目的とした県主催のイベントで、10月20日(土)・21日(日)、埼玉県民生活動総合センターにて開催された。本学からは創造システム工学科の中里研究室、樋口研究室および「ロボットボランティア」受講生らが参加。開催ブースで小学生対象のロボットキット工作教室と、両研究室のロボットの実演を行い、ものづくりの大切さや素晴らしさを広く県民にアピールした。

宮代町内の美化、地域の活性化、および近隣住民との交流を目的とした、学生環境推進委員会主催の通学路ボランティア清掃も今年で4回目になる。

11月24日(土)10時、宮代町スキップ広場から、4班4コースに分かれて清掃を開始した。回を追うごとに参加者が増えており、本年は学生自治会や留学生、障害者支援NPO「ふれんだむ」、中学生で組織された、様々な環境活動において活躍中のM.I.Y.A.S.H.I.R.O.エコスターズのメンバーら計105名が参加した。

宮代町内の美化、地域の活性化、および近隣住民との交流を目的とした、学生環境推進委員会主催の通学路ボランティア清掃も今年で4回目になる。

11月24日(土)10時、宮代町スキップ広場から、4班4コースに分かれて清掃を開始した。回を追うごとに参加者が増えており、本年は学生自治会や留学生、障害者支援NPO「ふれんだむ」、中学生で組織された、様々な環境活動において活躍中のM.I.Y.A.S.H.I.R.O.エコスターズのメンバーら計105名が参加した。

宮代町内の美化、地域の活性化、および近隣住民との交流を目的とした、学生環境推進委員会主催の通学路ボランティア清掃も今年で4回目になる。

11月24日(土)10時、宮代町スキップ広場から、4班4コースに分かれて清掃を開始した。回を追うごとに参加者が増えており、本年は学生自治会や留学生、障害者支援NPO「ふれんだむ」、中学生で組織された、様々な環境活動において活躍中のM.I.Y.A.S.H.I.R.O.エコスターズのメンバーら計105名が参加した。

宮代町内の美化、地域の活性化、および近隣住民との交流を目的とした、学生環境推進委員会主催の通学路ボランティア清掃も今年で4回目になる。

11月24日(土)10時、宮代町スキップ広場から、4班4コースに分かれて清掃を開始した。回を追うごとに参加者が増えており、本年は学生自治会や留学生、障害者支援NPO「ふれんだむ」、中学生で組織された、様々な環境活動において活躍中のM.I.Y.A.S.H.I.R.O.エコスターズのメンバーら計105名が参加した。

## 電子情報通信学会 吉野教授にフェローを授与



電気電子工学科の吉野秀明教授が9月12日(水)、電子情報通信学会からフェローの称号を授与された。

フェローとは、関連分野の見識に優れ、学会に対して顕著な貢献をした会員を表彰する制度である。

吉野教授は長年にわたって通信分野における研究に携わっており、ネットワークを流れる情報の量や品質の解析法・評価法に関する研究が、通信関連技術の更なる発展に貢献するとして評価された。

将来的には、例えば高速で快適なスマートフォンサービスの実現など、生活を豊かにする未来のネットワークの構築に繋がることが期待される。

授与に際して吉野教授は「大変名誉なことであり、これもひとえに多くの諸先輩方、同僚の皆様方からのご指導、ご支援の賜物であると感謝したい。今後も通信トピック・品質分野における研究に尽力し、本学のプレゼンスの向上に貢献していきたい」と抱負を述べている。

将来的には、例えば高速で快適なスマートフォンサービスの実現など、生活を豊かにする未来のネットワークの構築に繋がることが期待される。

授与に際して吉野教授は「大変名誉なことであり、これもひとえに多くの諸先輩方、同僚の皆様方からのご指導、ご支援の賜物であると感謝したい。今後も通信トピック・品質分野における研究に尽力し、本学のプレゼンスの向上に貢献していきたい」と抱負を述べている。

将来的には、例えば高速で快適なスマートフォンサービスの実現など、生活を豊かにする未来のネットワークの構築に繋がることが期待される。

授与に際して吉野教授は「大変名誉なことであり、これもひとえに多くの諸先輩方、同僚の皆様方からのご指導、ご支援の賜物であると感謝したい。今後も通信トピック・品質分野における研究に尽力し、本学のプレゼンスの向上に貢献していきたい」と抱負を述べている。

将来的には、例えば高速で快適なスマートフォンサービスの実現など、生活を豊かにする未来のネットワークの構築に繋がることが期待される。

授与に際して吉野教授は「大変名誉なことであり、これもひとえに多くの諸先輩方、同僚の皆様方からのご指導、ご支援の賜物であると感謝したい。今後も通信トピック・品質分野における研究に尽力し、本学のプレゼンスの向上に貢献していきたい」と抱負を述べている。

将来的には、例えば高速で快適なスマートフォンサービスの実現など、生活を豊かにする未来のネットワークの構築に繋がることが期待される。

授与に際して吉野教授は「大変名誉なことであり、これもひとえに多くの諸先輩方、同僚の皆様方からのご指導、ご支援の賜物であると感謝したい。今後も通信トピック・品質分野における研究に尽力し、本学のプレゼンスの向上に貢献していきたい」と抱負を述べている。

## 国外出張

- ◆成田剛准教授(建築学科) / 出張先「インド(10/27~11/4)」/ 目的「日本国政府ODA有償プロジェクトにおけるアジャスター・エロラー石窟寺院の保存修復」
- ◆呉志良准教授(共通教育系) / 出張先「中国(10/31~11/5)」/ 目的「北京国際青年研修学院との学生募集に関する協定締結の打合せと学生募集活動」
- ◆劉雯講師(共通教育系) / 出張先「中国(10/31~11/7)」/ 目的「衢州中等专业学校と武漢外国語学校の協定期間における入学試験の実施と学生募集活動」
- ◆古閑伸裕教授(機械工学科) / 出張先「中国(11/28~12/4)」/ 目的「IKM UTTにおける国際交流プログラム参加学生の引率と博士論文の審査」
- ◆鈴木清教授(ものづくり環境学科) / 出張先「中国(11/30~12/3)」/ 目的「低粒加工学会FT専門委員会第5回研究会・工場見学会への出席」
- ◆石崎克也教授(共通教育系) / 出張先「フィンランド(12/1~12/5)」/ 目的「研究集会「複素解析と微分および関数方程式への応用」について」講演および函数論関係の研究打合せ
- ◆正道寺勉教授(情報工学科) / 出張先「タイ(12/1~12/6)」/ 目的「第13回アジア太平洋経営工学とマネジメントシステム国際会議において論文発表」
- ◆石川孝教授(情報工学科) / 出張先「中国(12/4~12/8)」/ 目的「ウェビー国際会議」論文発表

## 編集後記

◆今年のノーベル医学生理学賞受賞者は山中伸弥京都大学教授であることは周知の事実。iPS細胞なる言葉もマスコミを賑わせた。共に、同賞受賞が決まったのはケンブリッジ大学の名誉教授・ジョン・ガードン氏。日本ではすっかり忘れ去られた存在ともいえよう。ともあれ、彼の紹介がされている新聞記事を引用したい。

▼15歳当時通っていた英国名門のイートン校の通知表で「酷評」という見出しがついている記事だ。本文では「1949年夏季学期の通知表で担当教師は「リポーターには50点中2点というものがあった」と指摘。「教師の言うことを聞かず、自分のやり方に固執する。科学者を目指す」と承知しているが、馬鹿げた考えだ。本人にとっても教える側にとっても完全な時間の無駄。」

何たる侮辱の言葉か。▼ちなみにこの年の生物学の成績は250人中最下位。ガードン氏は今もこの通知表を研究所に額に入れて飾っているそうだ。▼まさに「欠陥があるからそれを克服しよう」と出されたという好例ではないか。【信】

◆環境配慮の観点から再生紙を使用しております。



宮代町 174号

実戦向きの建築物

みなさん、行田市が舞台の映画「のぼうの城」をご覧になりましたか? 約500人の兵で守備する当時の忍城は、天守閣はなく自然地形を活用した実戦向きのお城でした。宮代町にも実戦向きの建築物として全国から見

学者を集める施設があります。それは、埼玉県産の集成材を活用した木造の「役場庁舎」です。庁舎南側がガラス張りである、窓はローカウナー、入口が複数あり、どの方向からも庁舎に入ることが出来ます。町長室や副町長室がないのも特徴の一つです。進修館と笠原小学校も深い味わいがありますので、こちらの見学もぜひどうぞ。